

和泉川 観察・測定

2019年 6月

東山の水辺

日曜	時刻	水位	流速	流量	雨量	気温	水温	PH	電導率	その他(生物、透視度等)											
										cm	目視	m3/分	mm	°C	°C	マイクロs	ア	オ	ザ	ス	その他
1 土	18:25	19.6	良流			20.8	22.8	7.0	200			10									ドジョウ大1
2 日	18:15	19.4	良流			20.5	21.2	7.0	210			7	2								カルガモ2
3 月	18:45	19.3	良流			21.3	22.8	7.1	200			7	1								ヌマエビ1
4 火	18:55	19.0	良流			20.7	23.3	6.9	240			13									ヌマエビ2 ドジョウ1
5 水	18:00	18.7	良流			22.4	22.4	7.0	220			11	4								ヌマエビ1
6 木	18:40	18.2	良流			24.3	25.3	6.9	210			7	4								
7 金	17:55	45.2	泥流		27	19.1	20.2	7.1	54												—
8 土					1																(外出)
9 日					13																(外出)
10 月	17:15	98.5	泥流		53	16.0	16.5	7.2	31												—
11 火	18:55	25.2	良流		36	17.5	19.6	6.8	230			12									ヌマエビ1
12 水	19:00	23.1	良流		11	19.3	19.5	6.9	230			5									ヌマエビ1 タモロコ1
13 木	18:50	22.1	良流			20.5	23.6	7.0	210	1		10									
14 金	18:30	22.0	良流		0	20.7	23.1	6.9	210	1		11									
15 土	18:10	32.2	泥流		63	16.5	17.5	6.9	75												—
16 日	18:55	25.0	良流		11	24.5	22.0	7.0	210			3	1								
17 月	18:50	24.9	良流			22.3	23.3	7.1	—			5									ヌマエビ2
18 火	18:40	23.4	良流			22.1	23.1	7.1	200			9									ヌマエビ1
19 水	18:25	22.9	白濁			23.3	24.5	7.0	210	1		19									ヌマエビ1 タモロコ1
20 木	18:20	23.1	良流			22.8	23.6	7.0	210			10	1								ヌマエビ2 タモロコ1 ヤマガラ2
21 金	17:10	23.6	良流			24.5	25.2	7.1	220			11	1								ヌマエビ3 シジュウカラ1 ヤマガラ2
22 土	17:50	31.2	薄泥流		10	21.4	21.9	7.1	113												ヤマガラ2
23 日	18:40	21.6	良流		1	20.5	20.1	7.0	210			13									アオサギ1 カルガモ1
24 月	18:20	25.6	薄泥流		42	19.5	20.9	7.0	94			11									ヤマガラ2
25 火	18:55	23.2	良流			21.5	23.6	7.1	210			19	1								カルガモ1
26 水	18:35	22.3	良流			24.1	24.9	7.2	210	1		12									ムクドリ(多)
27 木	18:55	21.9	良流		1	24.0	22.9	7.2	210			21									オナガ1
28 金	19:00	21.6	良流		7	25.3	25.6	7.1	128												カルガモ(糞)
29 土	18:30	22.2	薄泥流		11	21.2	21.3	7.0	113												—
30 日	18:35	25.5	良流		32	24.6	22.0	7.0	187	1		7									ユスリカ1 コオニヤンマ1 (ボーキS活動)
計		26.7	良流21		319	21.5	22.2	7.0	179	5	0	233	15								タモロコ3 ドジョウ2 ヌマエビ16
特記																					コオニヤンマ1 ユスリカ1

降雨日が16日もあり、降水量も多く水位は総て18cmを越え過去最高であった。それに伴って1, 2月の干上りで極端に減っていた水生生物が復活しつつある。しかし最も多く戻ったのはアメリカザリガニやヌマエビなどの甲殻類であり、この川を代表するオイカワは0であり、アブラハヤも少ない。水辺の野鳥を代表するカワセミも5月18日以降姿を現していない。中橋下流のワンドは今年3月埋め立てられ、ホタルの放流は叶わなくなってしまった。再生の可能性はゼロではなかっただけに非常に残念である。今年オオブタクサはとても少ない。ここ数年の結実前の徹底した除去が功を奏したのであろう。